遊羽雑感

大町桂月

青空文庫

一

古來、奥羽は、日本武尊を始めまつり、田村將軍、源頼義、義經など、英雄豪傑が武を以て王化に浴せしめたる處とのみ思ひしは、げに皮相の謬見なりき。われ山寺に遊びて、始めて知る、前九年の役に先だつこと凡そ二百年、早や已に絶代の聖僧慈覺大師が、徳を以て奥羽の人を救ひたりしことを。大師は、實に千年の前に立石寺を創めて、衆生を濟度したる聖人也。山寺名勝志に據れば、大師は、最上川の御殿と稱する處を開鑿して瀦水を排し、沮洳卑濕なる村上四郡を耕田と爲せり。なほ麻布製造の法をも教へたりとの事也。仰ぐべきかな慈覺大師。

二

山は必ずしも高きを尚ばず、樹あるを尚ぶといへり。國土は必ずしも、大政治家、大實業家、大軍人を出だすを尊しとせず、大徳の聖人を出だすを尊しとす。

三

山寺に芭蕉翁の蝉塚あり。彼の有名なる『閑かさや岩にしみ入る蝉の聲』の句は、翁が山寺にて作りたる也。余は翁の『五月雨を集めて早し最上川』の句を愛す。山形人士の舟遊に伴はれて最上川に遊びしに、人あり、水に臨める、宏壯なる家を指して曰く、芭蕉翁、當年かの家に宿れり。その筆蹟、今なほ存すと。われ思ふに、才にて進みたるの極は所謂上手也。才を離れて、始めて所謂名人となるを得べし。何事も、名人の域に達すれば、共に談ずるに足る。翁の如きは、俳の聖也。即ち名人の域に達したる人也。

四

天狗巖、五大堂、釋迦堂、南院の堤を山寺の四大觀と稱す。余は南院の堤より立谷川を隔てて山寺を仰ぎて以爲へらく、天下の絶景なりと。人の心は、さま〳〵也。山寺を箱庭的といふ者もあらむ。箱庭的といふとも、これくらゐ面白き箱庭的の處が他にあるかと云ふ者もあらむ。垂水巖に、蜂巢の如く穴あきたるが面白しと云ふ者もあらむ、それは兒戯的なりと云ふ者もあらむ。猫石眞の猫の如しと喜ぶものもあらむ。塔岩最も奇なりと喜ぶ者もあらむ。楓川の紅葉、藤花、霰、雷神諸瀑を見ずんば、山寺の美を談ずべからずと云ふものもあらむ。石橋の奇、天下に冠絶すると云ふものもあらむ。余は望む、南院の堤に、せめて茶亭あれ。茶亭に酒あらば、なほ更よし。河鹿わが爲に歌ひ、清流天上の涼味を傳ふ。山寺の一山、すべてこれ寺院堂塔のみにもあらず。すべてこれ奇巖怪石かと見れば、奇巖怪石のみにあらず。すべてこれ老松巨杉かと見れば、老松巨杉のみにもあらず。雲烟その間に搖曳す。小景とは云ふべからず。奇景とのみも云ふべからず。たゞ〳〵〳〵天上の仙閣の趣とは、斯かるものかと思はるゝ也。時には、このやうなる野趣もあらむ。

牛洗ふ人いとけなし夏の川

（明治四十二年）

青空文庫情報

底本：「桂月全集　第二巻　紀行一」興文社内桂月全集刊行會
　　1922（大正11）年7月9日発行
入力：H.YAM
校正：門田裕志、小林繁雄
2008年8月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

遊羽雑感

大町桂月

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/